

たわわ

TAWAWA

NPO 法人地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2012年4月25日

122号

NPO 法人

「地域で生きる障害者を支える会」

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

1年の計は、春にあり・・・？

誰もが安心して暮らす日を目指して



いつの間にか、公園では、桜に代わってハナミズキが満開です。

3月末には恒例になっている春の新吉田交流バザーが企画されました。

残念ながら、暴風雨で提供品のバザーは、大幅に縮小せざるを得ませんでした。前日から家族会の人たちが作ったお惣菜や、仕込んだおでんや焼きそばなどは調理して、屋内で販売いたしました。

また、お越しくださった近所の方々や、グループホームのなかまたちとは、コーヒーをお飲みいただきながら文字通り膝を交えての交流ができ、かえってお近づきになれたと思います。また、今年は、これまでにない家族会の父親たちの参加も多く、男性のボランティアさんも雨の中ご奮闘いただき、感謝いたしました。

なんだか、雨であった分、皆いつもとは少し違った充実感をあじわった催しとなりました。ご心配いただきました皆様にも、心よりお礼申しあげます。

* * *

♪ さて、バザーのあとで、またバザーのお話・・・

今回は、5月20日に予定されている『活動ホームしもだ』でのバザーの準備です。

活動ホームができてから、毎年5月の第2日曜日に行われている、「しもだ地域交流バザー」は、今年で第24回目となります。

ボランティアさんとして、200人からなる地域の方たちにお手伝いいただくために、何度もバザー委員会を開いて準備を重ね... 値付けをしたりと、春は大忙しの活動期です。

お陰様で、活動ホームは地域に根付き、多くの方たちに支えられ、そんな中から『支える会』もグループホーム「よつばホーム」も生まれたのでした。

10年ほど前から、強化型活動ホームへ移行すると、職員

俳句

タンポポを	色あわく	春風や	俳句
髪に飾って	しだれぎくらの	もくれんの花	(よつばホーム)
春うらら	美しき	咲ききそい	高島勢津子

今月のよつばホーム

よつばホーム

春一番が吹かないかわりなのか、『爆弾低気圧』と言われる台風を思わせる悪天候が過ぎ去った週末には横浜市内各地で桜の見頃をむかえました。

よつばホームのメンバーでせせらぎ公園に花見に行きました。今ひとつすっきりしない空模様と低めの気温のため真冬ばりに着込んで行きました。

公園近くのスーパーでそれぞれ好きな食べ物を調達しました。

レジャーシートを広げ、その上にはなんと『卓袱台 (ちゃぶだい)』まで登場して、昭和の雰囲気満点でお花見スタート！卓袱台いっぱいにならぶ食べ物は『サンドイッチ天ぷら焼き鳥』等々。たくあんまで並ぶとますます昭和っぽくなってしまったが…。『いただきま〜す』の声と同時に雨粒が落ちてキター...(ToT)。

通り雨だったようで間もなく雨も上がり、薄日もさしてきました。お腹を満たした後は公園を散策。桜をはじめ、たくさんの花が咲いていました。

途中『青年クラブ御一行』と会いました。ちょっと冷たい春風を感じながら公園散策を楽しんでいたようです。



* * *

いつもは夕食を食べたらすぐに自分の部屋に戻ってしまう次郎さんが、今日は静かにリビングでじっと座っているのは…。それは今日が次郎さんの誕生日だからです！

4月7日(土) チョコレートケーキでお祝いパーティーをしました！

夕食が終わってお茶とケーキの準備をしていると、待ちきれなくなった次郎さんがそわそわと、それでいてとても嬉しそうな笑顔で作業の様子を覗きにきます。

「今できるからちょっと待ってね！」

大きなケーキにロウソクを立て、手拍子&伴奏と共にハッピーバースデイトゥーユー♪次郎さんは一生懸命ロウソクを吹き消し、皆おいしいケーキをいただきました。

来年も再来年も、また皆で元気に誕生日ケーキを味わえますように！

第2よつばホーム

3月28日で第2よつばホームは丸8年が過ぎ、開所9年目を迎えました。

あつと言う間に8年経ったような感じもしますが、思い返してみると本当に色々なことが起き、それをみんなでクリアして歩んできた長い8年でもあります。

様々な問題もありましたが、グループホームに関わるみんなのご支援、ご協力により乗り越えてここまでくることが出来ました。現在進行中のハードルがいくつも目の前に迫ってきていますが、みんなで協力してまた乗り越えていきたいと思えます。

ありがとうございました。今後とも引き続きよろしくをお願いします。

* * *

3月31日は地域交流バザーがありました。あいにくの天気により、大幅縮小となりましたが、何とか開催することが出来ました。お手伝いいただきました、地域の方々ありがとうございました。来年もまたよろしくをお願いします。





めがねの声

◇重い障害者は グループホームがおすすめ...

私がグループホームに入ってから、8年がすぎました。

ほんとに早いと思います。それ以前は、グループホームができることなど考えてもいませんでした。そのうちいつかは、今住んでいる実家で、誰かに手伝ってもらいながら自立して暮らせないかなと考えて話していました。

一人暮らしは、私の障害が重いし、言葉が出ないので無理だから、初めは良くて、だんだん疲れてしまう、と母はいいました。でも、何かあっても困るし、いろいろやってみることも大切なので、生活の体験をしようということになりました。

その頃、共生会の横浜ライズができたばかりで、ゲストルームを借りることができました。

私たちは、ボランティアのともだちや、手伝っていただける人とグループを作って毎月1回体験をはじめました。(編集注・紙面の都合で中略します)

このボランティアさんたちや、ライズのお部屋を頼むのは、毎回自分でやりました。大変でしたが、夜などに友達とゆっくり話すことができたりして、とてもよかったです。

* * *

そして、間もなくよつばのひとたちのグループホームを作ることになりました。重度の人たちばかりの2館目の「第2よつば」ができるころ一人空きができました。私が、支えるつもりで、入ろうと母といいました。「自立の始めだわね」と言っていました。

ともだちや、知り合いの人たちは『入ってしまうの?』や『まだ早いよ』といいましたが、毎週金曜日には実家に帰るといふと、『ん...』とうなずいてくれました。

2年目に入るところから、微熱が長く続きました。パソコンもやめ、テレビも見ないようにして安静にしていたのですが、なかなか下がりません。不安定な状態が7~8か月も続きました。病院の先生も、友達もおうえんしてくれました。たくさんの人たちが応援してくださるのがわかりました。そのうちにやっと心と体が慣れて熱もなおりました。

今では、夜の暮らし方が変わるだけで私の生活が全部変わるわけではない。と思っています。よかったのは、グループホームの場所が実家と活動ホームの中間にあるということです。遠くから通うのではなく、ちょうど下宿をしているみたいだとおもうと、体も楽し、ゆっくりできるのでとてもよかったと思っています。

* * *

この前のLiveトークの時、重い障害のある人が、「一人暮らしをしてみて、大変だけど、とても自由でいいですよ」といわれていました。

私は、もっと障害が重いので、手のあるグループホームに暮したほうが良いと思います。

よつばホームは、職員もヘルパーさんも慣れていて、わたくしは、少しわがままも言えるようになって疲れなくなりました。

ただ、2人や3人などでも暮らせるような、いろいろな種類のグループホームもできたらしいと思います。

大原友子

の数も増えて次第に親たちの役割も少しずつ変化をしてきました。

大変であったといえそうですが、今では、何のイベントにおいても、準備から人の配置に至るまで、皆の頭の中にすぐイメージができるほど、“プロフェッショナル?”となりました。役割は変化してきてはいますが、やはり要のところは、当事者なのです。障害者とその家族の頑張りが地域を動かしていることには違いありません。

とはいえ、初回から24年すぎ、活動が徐々に大変になっていく人たちもいます。身体をいたわりつつ、お互いに思いやりの心で『支える会』の推進力として、励ましあっていたいと思っております。

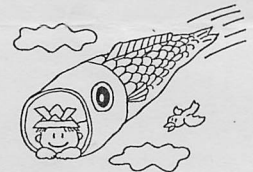
「支える会（NPO法人地域で生きる障害者を支える会）」の活動

障害を持つ人たちも、地域の中で普通に生き生きと暮らせるように、

会員皆さんの力を合わせ、いろいろな支援をします。

そして、ハンディのある人が暮らしやすい社会は、

誰にとっても暮らしやすい豊かなところであると信じます。



* 1. グループホームへの支援

- 1) いま、行政の補助金は、重い障害のある人たちのグループホームも特別に多く助成してくれるわけではありません、ことにグループホームへの補助金はここ10年も変わることがなく、よつばホーム運営委員会では、多くを障害者の自己負担にたよっています。このため、人材の募集や育成にかかる経費や予備費は、NPO法人「地域で生きる障害者を支える会」が担っていきます。
- 2) 重度障害者にとって、日々の体調の管理はかせません。このためPT（機能訓練士）を派遣し、メンバーの身体の状態を把握し、日常生活へのアドバイスを行います。このことは、職員やヘルパーの介助の心強い支えともなり、場合によっては、デイサービスで行っている拘縮予防の全身運動へのアドバイスも致します。
- 3) その他環境の整備への支援

* 2. 啓発事業

- 1) 写真・パネル展示会⑩の開催
広く市民の皆さんに、障害者の生活などを知らせます。
同時に、当事者の声などを特集した「たわわ」別冊増刊号を発行します。
- 2) NPO法人「地域で生きる障害者を支える会」通信『たわわ』（原則月刊）の発行
会員の皆さんへ身近な福祉事情のおたよりや、障害者たちからの発信をします。
会員や友誼団体、支援者へ発送し、グループホームのある地域へ回覧します。

* 3. 研修会

（防災、安心ノート、新たな制度、今後の「支える会」の役割など）

国の制度も変わりますが、私たちを取り巻く状況も変わっていきます。

みんなで、楽しく議論をしたり、見学をしたり、どなたでも楽しく参加をしながら交流も図っていきましょう。